



▲左から小林 裕明教授（鹿児島大学病院副病院長）、今村 英仁理事長（公益財団法人慈愛会）、尾脇 雅弥市長、大石 充教授（垂水市スーパーバイザー）

産み育てやすい環境づくり。

◎今回の連携内容

- ・産前産後ケアに関すること
- ・新生児訪問に関すること
- ・子ども、子育て支援に関すること
- ・思春期保健に関すること
- ・垂水市における産科医療導入に関する検討に関すること 等



▲協定書に署名する様子

※詳細につきましては16ページをご覧ください。

公益財団法人慈愛会と垂水市は、妊娠期から子育て期にわたり、切れ目のない支援を行い、安心して子育てができるための環境の充実を図り、『元気な垂水づくり』の子育てを支援するまちづくりの実現に寄与することを目的に、5月10日、鹿児島市で包括連携協定を締結しました。

今回の協定により、慈愛会の医師、看護師、助産師等の豊富な人材資源と、専門的な知識やノウハウを活用することで、妊産婦や乳幼児世帯が子育てに関する知識を深め、子育てへの不安や課題を解消することが期待できます。

本市では、『仕事と子育ての両立』と『子育て世代の経済的な負担軽減とサービスの充実』も併せて重点施策として『妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援』の実現に取り組み、相談会や講演会をはじめ様々な事業を推進してまいります。



▲多くの方がメモを取りながら、熱心に聞いていました。

～親子で育む自尊感情～

◎ SOS の出し方・受け止め方教育事業

市内の小中学生、先生等を対象に授業、研修の実施を計画しております。

詳しくは市HPから



◎ たるみず寄りそい心の相談

本市では『対面・電話・LINE』を設けて、相談体制を強化します。垂水市民の方ならどなたでも無料で相談いただけます。

詳しくは市HPから



▲講師の高橋聡美様

子どものSOS受け止め方講演会が4月24日、講師に高橋聡美様を迎え、垂水市文化会館で行われました。

これは、子どものSOSの受け皿となる保護者等に、子育てのヒントや子育て支援の一助としていただく目的で開催されたもので、本市では初めての試みとなります。

当日は、約200人が参加し、データを用いて、子どもたちが抱える課題とSOSの受け止め方を、具体的な例を挙げながら解説されました。

高橋様は「子どもたちの未来は私たちの想像の外にあります。そのことを大切に、子どもの心と命を守っていきましょう」と話されました。

本市では、今年度もSOSの出し方教育事業として小中学校で授業、研修会を計画しております。今後関係団体と連携し、自殺対策の本質である生きることへの包括的な支援を推進してまいります。